# すばらしい音楽とともに101年が夢のように過ぎました

声楽家

# 中川牧三さん

101歳

## 100歳、まだまだ現役！

昨年、東京、大阪、長崎で行われた〈中川牧三　生誕一世紀祝賀記念〉のガラコンサートには、海外の名歌手や教え子たちが多数出演し、中川さんの百一歳を祝福した。そして今年、大阪・中之島の中央公会堂で開かれた関西フィルハーモニー管弦楽団の演奏会や京都コンサートホールで開かれた演奏会には指揮者として登場し、アメリカのストコフスキー（七十七年没）の九十五歳を遥かに上まわる、世界最高齢指揮者記録を達成した。

昭和五年に、近衛秀麿氏を後見人に欧米へ留学し、バイオリンや指揮、作曲、歌唱（ベルカント）を学び、戦後は関西で多くのオペラを指揮、演出はもちろん歌唱指導から翻訳、オーケストレーションまですべてをひとりでこなして初演。また数多くの音楽団体を創設して、後進の指導に当たるなど、日本の音楽振興に貢献してきた。中川さんは、現在も自宅で生徒を教える現役の声楽家だ。

「レッスンすることで、いい運動になっています。歌を歌っているときがいちばん楽しくて、気持ちがいいですから」

十歳でバイオリンを習い始め、賛美歌が歌いたくて同志社中学に通った中川さんは、留学先のイタリアで観たヴェルディの『リゴレット』で本場のオペラに開眼した。

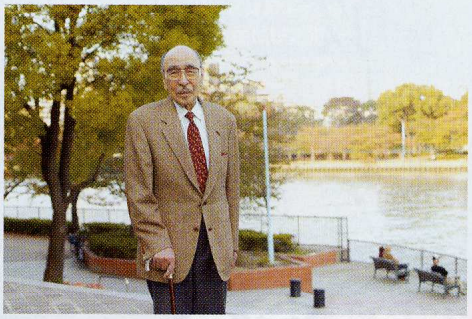
「日本の音楽教育はドイツ式で、バッハを音楽の父、ヘンデルを音楽の母と崇めてきました。ところが、イタリアの伝統的ベル・カント唱法による美しい声を初めて聴いて、まさに魔法のようだと思いました」

オペラの華、ベル・カントとは、メソポタミアで発生し、ギリシア経由でローマに入った歴史を持つ、喉に無理なく、低音から高音まで伸びやかに歌う歌唱法。

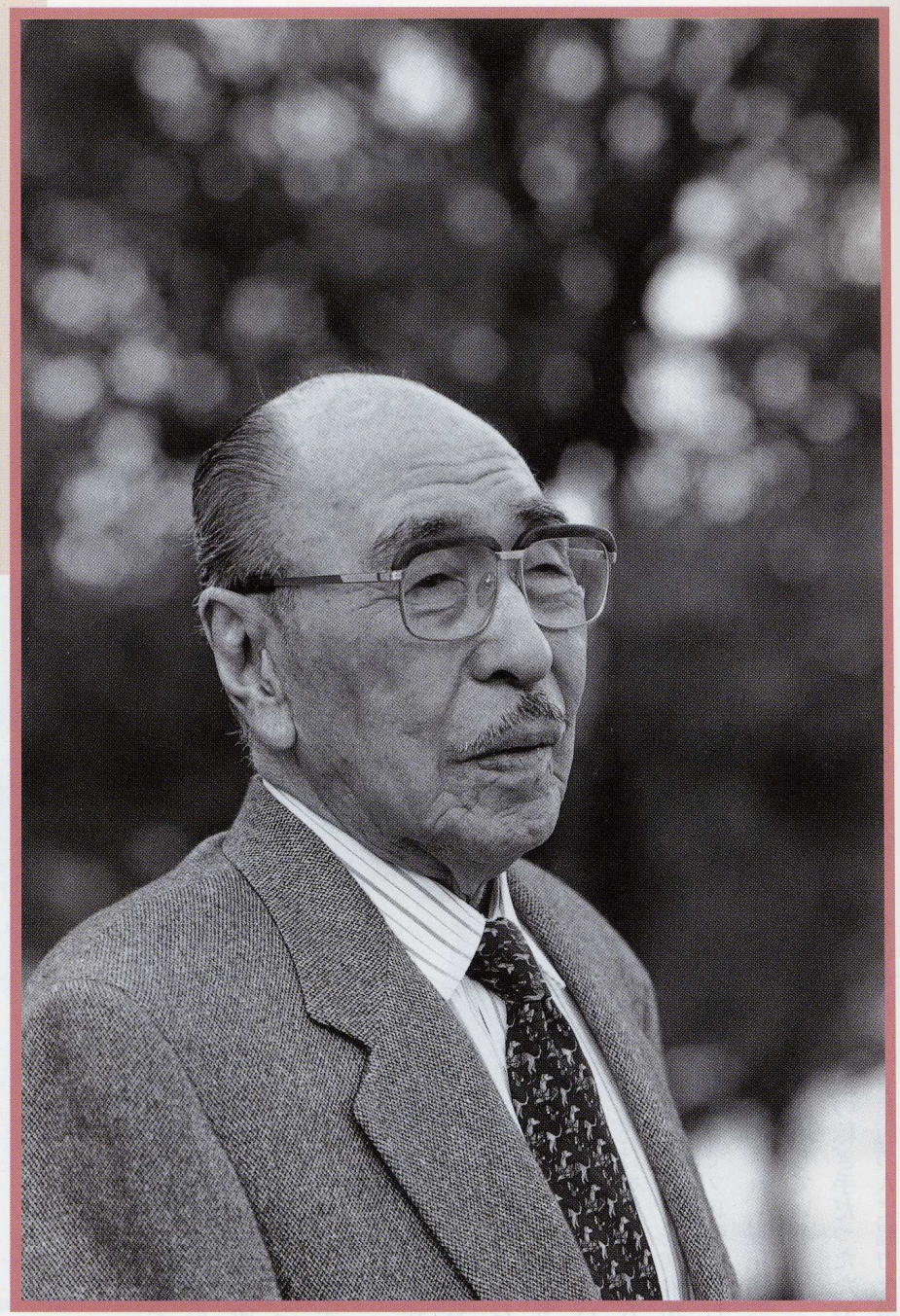
「日本語とイタリア語の発音はよく似ていますから、日本人はベル・カントを歌うのに向いているのです。このベル・カント唱法を正しく伝えたかった」

と創設した〈イタリア声楽コンコルソ〉は、今年で三十五年目になる。毎年優勝者二名ほか数名を、かつてロッシーニが校長を務めたボローニャ国立音楽院はじめ、イタリアの国立音楽機関へ送る、国際的オペラ界への登竜門だ。

中川さんが海外で学んだことは、音楽が人に与える歓びだけではない。日本を客観視する眼を養ったからこそ、数々の世界屈指の国際コンクールに初の日本人審査員として招かれ、約半世紀にわたって審査員を務め、世界の至宝といわれるマリオ・デル・モナコやレナータ・テバルディをはじめ、黄金時代の巨匠らとの幅広い親交も深めているのだ。太平洋戦争のさなかも南京総司令部参謀幕僚の立場で、上海陸軍報道部のスポークスマン



180cmの長身に
フェラガモのファッションがよく似合う。
おしゃれもイタリア仕込みだ。



撮影／楓　大介

なかがわ・まきぞう
明治35年年京都市生まれ。昭和5年渡欧、ベルリン国立音楽院、ミラノ国立音楽院、国立スカラ座歌手養成所、南カリフォルニア大学で学び、昭和9年に帰国。戦後「全日本学生音学コンクール」や国際水準で名高い「イタリア声楽コンコルソ」を創設、「ヴェルディ国際声楽コンクール」など国内外のコンクールの審査運営に携わる。オペラ界への功績に対し、イタリア政府より「カヴァリエレウフィチャーレ」「マルタ騎士勲章」「マルタ騎士勲章日本大使」を重ねて受章。

をひとりで終戦まで務めた。上海交響楽団を指揮したり、ルーズベルト大統領の死に際して弔旗を掲揚したり、ユダヤ人の収容所送りを阻止するなど、ヒューマニズム溢れる行動に徹した。

「僕はただ、どういう態度をとれば人は喜んでくれるかを常に考えただけ」

とさりげなく口にする価値観は、生まれ故郷の京都の思想に裏打ちされている。国を愛し、人を思い、自国の伝統に誇りを持つと同時に他国の文化を敬う心と、ベル・カントへの熱い思いの根は同じはず。こうした優しさと潔い生き方が、長寿に恵まれる要因なのだろう。

普段の暮らしは娘のくにこさん任せだ。

「父の日常は、決めごとなど何もないイタリア流。夜更かしだから昼頃起きて、フレンチトーストとカフェオレの食事。好物はチーズ、卵、牛乳。野菜嫌いでトマトにお砂糖をかけて食べますが、子供の頃から出されたものを感謝していただく習性からか、どんなに喉が渇いたり空腹であっても、自分からは言いません」

好きなことだけを楽しむ生活は、年数カ月滞在するボローニャの自宅でさらに充電される。中世の叙情を残すボローニャは、ベートーヴェンやモーツァルトも学んだ音楽の聖都。膨大な音楽史の文献や医学、美術など文化遺産を誇る街だ。

「自宅はサン・ドメニコ教会の真正面。この教会はミケランジェロの作品やモーツァルトが弾いたオルガンもある街のシンボルですが、うち中のどの窓も教会の美しい広場に面しているので、毎日気持ちいいですよ」

この理想郷で、十二月七日の誕生日を迎える予定だ。しばし音楽を主食にベル・カントの調べに酔い、二〇〇五年に向けて、百二歳の活動が始まろうとしている。